

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、まことに、ありがとうございます。月間通信 4月号をお送り致しました。何卒、よろしくお願い致します。

## When I woke up this morning, I thought "Oh I was still alive".



2025年3月12日の朝、眼が覚めた時、ウン？ 未だ生きている と思った。

先月3月8日夕方、何気に物を両手で頭上に上げると、首筋から後頭部に掛けて痛みとも、重圧ともとれる感覚が走った。明るく日曜日に血圧を計ると 195 と 90 だった。

ウ～ン。

それから、一日中『脳圧が高いなあ』という気が、頭から離れなかった。それで高槻の家にその深夜帰り着き、高槻にある血圧計で計ってみると、175 の 80 まで下がっていた。ところが月曜日一日会社で仕事をして、帰宅して計ってみると、なんと 205 まで上がっていて、『さすがに、これは』と思った。

11 日火曜日は、久々に仕事が何も入っていなかったため、元々休養に当てようと思っていた通り、そのように一日休養していて、夜に計ってみると 215 の 105 まで更に上がっていた。その事を中澤佐江子に言うと、『仕事していた方が良いのでは・・・』と言った。洒落が効き過ぎているではないか。

その週、何曜日かは覚えていないが、エウスタキオ管が圧の変化に対応できない時に発生する、右の耳奥に少し痛みを伴う圧迫感のような感じが残り、それは今も続いている。良い事には、続いていた頭全体の圧迫感は、19 日の午後、家に来てくれた美容師にリンパマッサージを頼み、施行してもらった。身体全体はスッキリして緩和された。姿勢も良くなり、視界が変わり身長が 3cm ほど伸びたような感じがした。ただ、そもそもは中澤佐江子にパーマをかけに来てくれていたので、首から上は時間切れで頼めなかった。これは改めて、自分の為にだけ来てくれるよう依頼し、それは 4 月の 10 日と予定されている。それまでに一度耳鼻科に行くかどうか考えている。

実は 2 月に、高知のスーパーマーケットさんに売上額 150% の数値 Vision 実行案を提出していて、担当常務から『吉田社長、これは 5 年 7 年計画くらいだと思いますが、最後までお付き合い頂けるのですか』と質問されていた。他にもふたつ質問があったが、それは応えた。その最後まで・・・は、『命ある限り』と応えた。その応えでは不十分と思えたので、『人間ドッグに行きます』と応えていた。中澤佐江子にその人間ドッグの下見は一昨年、昨年と依頼して済ませてある。

その事を、その企業の青果バイヤーと Zoom 中に話しすると、同席していた営業の有安が『エッエ～』『これは前代未聞の出来事になる』騒ぎ出した。

今の今まで、人間ドッグはおろか、会社の健康診断も受けたことが無い。一度 40 を過ぎた時、健康診断に行ったが、半分程度過ぎた時点で、次の検査室のエアコンで鼻炎が酷くなった。検査官の女性が『花粉症ですか』と軽口を言った。別に他愛のないひと言だが、『此処のエアコンの空気のせいですよ』と勝手に怒り始め『申し訳ないけど帰ります』とその検査員に言った。自分でもやっかいなオッサンだと思う。

ビックリしたその検査官は、『後もう少しだから、受けて行ってください』『私が、以降の検査すべてを御案内して、順番待ちしなくても良いようにしますから』と説得され、強引にでも帰ってしまえば良かったのに、その力に押されて承諾をしてしまった。それから列を為しているみんなから『あいつ、何なんだ』って顔されながら、次々と待たずに終えた事があった。後にも先にもそれだけで、もう二度と健康診断はゴメンだと決めていた。

で、『人間ドッグに行く』その日は、この便りが皆さんに届く 4 月 1 日と 2 日の 1 泊 2 日。先日届いていた事前の問診票を放置していたら、早く送れと催促の連絡があった。それで開いてみたが、記入するところなど何処も無かった。そもそも病歴が無い。手術するほどの怪我もない。身体は、周りのみんなが迷惑なほど至って元気。記入したのは、血縁についての質問で、『高血圧の方はいませんか』だけ。これは小学校に上がる前に確か記憶では母方の祖母が倒れたと言っていた気がする。もうひとり、我が父は、私が高校 2 年生の夏に眼底出血をして、あれほど好きだった麻雀をぷつぷつやめた。その祖母はその後 60 代で亡くなった。父はそれから長生きし 88 歳で亡くなった。母は何度も書いているように 97 歳を全うしたし、その父親である祖父は 102 歳まで生きていた。100 歳で富士山の頂上まで登ったと自慢したり、あろうことか住んでいる祇園からタクシーで彦根の母のところまでやって来て、『みんなが僕に肉を喰わせないようにしている』と文句タラタラと言って帰ったそうだ。どうやって帰ったのかは知らないが、母が『お爺ちゃんの為やがな』と説得したのだろう。

長閑と言えはのどかな話した。で、遅ればせながら画像の話したが、小豆島で樹齢 100 年ほどの樹を伐った。どうも自分が伐るとあらぬ方向に倒れそうなので、本職に頼んで倒すだけ倒してもらった。後は玉切りにすれば良いだけだが、自分が持っている 45cm のバーでは届かなくて、あっち側こっち側と両方から切らないと切れない。45cm の長さの薪にしたいので、その部分が節くれに当たると、チェーンソーの本体自体が入らなくて厄介極まりない。後は、ユンボにチェーンを付けて、引っ張り上げながら角度を変えたりして何とかする。

直径は 1m もあろうかと思うが、幹の中心は虫に巣喰われていて、縁 20cm ほどしか無かった。此処に来て 18 年が経過するが、2 度ほど一定の高さで枝を払い、背を低くしていたが、今回は腰の高さでバツサリと、と何故か思った。もっとも思ってから 1 年伐るか伐らざるか悩んでいたのだが、伐る事に決めた。朝電話があり、午後からというので、有り合わせの料理用ワイン 1 本で禊をつけ、礼を言って耳を幹に当てて見た。何も感じられなくて意外だった。でも、こうして倒してみるとその訳が分かった。こんな大木が、海からの風に煽られて、倒れでもしたら、方向に依っては大ごとになる。

倒す前は、これだけ生きてきた樹を伐るのは忍びない気持ちだったが、この結果を見れば落ち着いた。事実、玉切りしている時に、樹に腰かけると妙に落ちていた。勝手な解釈だが、『伐ってくれてありがとう』と言われているようにも思っていた。今回の高血圧騒動は、この樹が伐られることが決定して、何かを自分に語り掛けているのかと思っていた。そういえば、この樹を伐った後血圧を計っていない。耳奥の圧迫感は消えたり現れたりしている。脳の圧迫は幾分マシになったと自覚している。血圧という数値の動向は知らないが、自覚症状としては緩和されてきた気になっている。

そうそう、血圧漸以降毎朝、玉ねぎスライスやセロリ、胡瓜、リンゴ、いろんな生野菜が柑橘ドレッシングをまわって食卓に出て来る。以前は、本当にたまに生野菜を食べる事があったが、基本は食べなかった。だけど、今は美味しい。